

## 長春・春の風物詩

4月末に中国に渡航し、早くも1か月半が経とうとしています。到着してしばらくは上着が必要なくらい冷える日もありましたが、ここ最近は30度近くまで気温の上がる日が続いており、緯度が高い分少しは涼しいかもしれないという期待ははかなく消えてゆきました。

さて、私が住んでいる長春市ですが、春から今の時期にかけての風物詩があります。それは、街じゅうに飛び交っている「綿」。ピーク時には季節外れの雪でも降っているのではないかと錯覚するほどでした。

前任者から「綿が飛んでいるので、マスクが必要」とは聞いていましたが、どこから飛んできくのか、そしてそれが一体何なのか、まるで想像もつきませんでした。しかし、こちらに来て、実際目にしてみるとそれは確かに「綿」でした。白くてふわふわとしていて、風に漂って、昼でも夜でもあちこちに飛んでいます。地面に落ちたそれを手に取ってみると、綿毛の先端に小さな粒のようなものが付いているのが見てとれました。どうやら何かの種子のようです。

実物を見たら、あとはその正体を突き止めるまでです。私は現在東北師範大学という学校に在籍していますが、同じ大学に宮城県から派遣されている方がいらっしやいます。その方に「綿」について尋ねてみましたが、「僕もよく知らないんですよ」とのこと。1年近く生活していらっしゃる方でも分からないとなると、ますます気になってきます。

ある日、窓の外に飛び交う「綿」を横目に授業を受けていると、クラスメイトが窓の外を指さしながら先生に「あの綿はなんですか？」と尋ねました（尋ねたはずです。まだ授業に数回しか出ていなかった頃なので、実際は周囲が何を言っているのかほとんど分かっていませんでした。）。渡りに船とはこのことでしょうか、先生は、黒板に大きく「柳」という字を書きました。日本人で良かったと切に感じました。たとえ聞き取れなくても、漢字を書いてもらえば何とか理解できます。あの「綿」が柳の木から生成されるものだということがわかりました。

放課後、学校の敷地内の池に行きました。その池の周りには、たくさんの柳の木が植えられています。その木をよく見てみると、確かに枝の先にあの「綿」がたくさんくっついていました。

後日、詳しく調べてみたところ、あの「綿」は柳の「穂」だそうです。日本でも柳は全国各地にみられますが、こちらに植生しているものと品種が異なるそうで、日本のものはあまり「綿」を形成しないのだそうです。

タイトルに「春の風物詩」と書きましたが、この柳の穂、古くから漢詩にもよく詠まれているようで、まさに中国の春の「風物詩」と言えるでしょう。

(吉林省派遣・杉谷)